

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1471902807
法人名	株式会社小林留次郎商店
事業所名	グループホーム チェリーホーム森崎
訪問調査日	平成29年1月30日
評価確定日	平成29年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チー = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成28年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471902807	事業の開始年月日	平成17年9月1日	
		指定年月日	平成17年9月1日	
法人名	株式会社 小林留次郎商店			
事業所名	グループホーム チェリーホーム森崎			
所在地	(238-0023) 横須賀市森崎1-1-21 マルエムビル2・3F			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成29年1月15日	評価結果 市町村受理日	平成29年4月14日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

時間等に縛られず、一人一人の方に合わせたペースでゆっくりと一緒に楽しみながら、入居者の方々、スタッフ共に笑顔で暮らす日々を大切にしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成29年1月30日	評価機関 評価決定日	平成29年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は(株)小林留次郎商店の経営です。この法人は、平成11年に馬堀・平成15年に油壺・平成17年に衣笠と3ヶ所のグループホームを開設、平成25年に北久里浜にデイサービスを開設する等、横須賀市で幅広く福祉事業を展開しています。平成27年3月に、建物の老朽化に伴い「チェリーホーム衣笠」を移転、「チェリーホーム森崎」と変更して新規オープンしました。ビルのオーナーが3階建ての介護施設を望んだこともあり、デイサービスのノウハウを活かして1階に小規模多機能ホームを併設、2階・3階を2ユニットのグループホームとして運営しています。場所は京浜急行「久里浜駅」から徒歩15分、またはJR「衣笠駅」からバスで10分程、バス停「五郎橋」を降りると目の前にあり、横には平作川が流れ、川沿いは日頃の散歩道となっています。

●法人の理念は「ゆっくり・楽しく・いっしょに」を柱として5項目を掲げています。リビングで過ごす方が多く、職員は「ゆっくり」でも皆で一緒に楽しめることを毎日模索しながら、日々の生活の中に取り入れています。移転後も継続して勤務している職員が多いということもあり、職員間のチームワークが良く、全員に理念の「ゆっくり・楽しく・いっしょに」が浸透し、日々、理念に沿ったケアが実践されています。今年度は新卒の職員が入職したこともあり、キャリアパスを導入し、会社で研修費用等を負担して資格取得のバックアップ、外部研修への参加しやすい環境を整備することで、職員のキャリアアップや育成に力を入れたいと考えています。

●地域とは、移転してから2年近く経ち、移転初年度に目標に掲げていた、町内会にも加入し、地域のお祭り等の行事に参加、ボランティア、中学校の職業体験の受け入れ等、交流も深まってきています。また、運営推進会議の中で行っている、介護や認知症の勉強会の内容が口コミで地域に広まり、他のエリアの民生委員の方からも参加希望も多く、他のエリアの民生委員の方も交えながら勉強会を開催しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームチェリーホーム森崎
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中での関わりを大切に、管理者は理念達成に取り組んでいる。また、職員は管理者の姿勢を見ながら、理念を共有し、日々取り組んでいる。	「ゆっくり、楽しく、いっしょに」「人としての尊厳を大切に」「地域の方々との交流」等の5項目からなる理念を、リビングと事務室に掲示しています。理念についてユニット会議でも取り上げて話し、職員全員が、「ゆっくり、楽しく、いっしょに」理念を心がけ実践に繋げています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	移転してから2年近くたち近隣の方々にも協力を頂き、お正月には獅子舞い。三味線、民謡を聞かせていただきました。またボランティアの方が正月にきて「お茶会」を開いていただき入居者の皆さんが大変喜んでくださいました。	移転してから2年近く経ち、移転初年度に目標に掲げていた、町内会にも加入し、地域のお祭り等の行事に参加、お正月には獅子舞、三味線や民謡の方が来訪し交流を図っています。中学校の職業体験の受け入れ、ウクレレやフランダースのボランティアの訪問もあります。今後は、事業所でバザーも開催したいと考えています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お年寄りを抱えるご家族より、時々介護相談を気軽に受け入れ、地域の人々に役立てられるよう取り組んでいる。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他の地域の民生委員の方から相談を頂き、地元の民生委員の方々と一緒に問題の解決に向けて取り組んでいる。	運営推進会議は2か月に1回、民生委員、地域代表、家族、利用者、市や地域包括からは年に1回参加いただき開催しています。事業所の活動・状況報告や民生委員の方からも地域の介護相談を受け、共に問題の解決に向けて取り組んでいます。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	業務に疑問が発生する度に行政の担当者にご迷惑をお掛けし、ご指導頂き感謝している。今後も自助努力は当然だが、行政の指導を賜り、サービスの向上に努めていく。	実地指導の際に、指導監査課の方から指導や助言をいただいたり、生活保護受給者の受け入れを行っている関係で高齢福祉課職員ともその都度連絡を取り合っています。また、グループホーム協議会に加入しており、連絡会や研修会に参加し他事業所とも情報の共有に努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で「身体拘束廃止委員会を設置し施設長を委員長としスタッフ全員を委員会のメンバーとして月1回のスタッフ会議の際に、身体拘束についての勉強会や話し合いを持っている。施設長、管理者が「身体拘束廃止推進モデル」の研修会の受講を受けているので、今まで以上に身体拘束のない介護をおこなっている。	法人の代表を会長として、事業所内で身体拘束廃止委員会を設置しています。管理者を委員長として、全職員が委員会メンバーとなり常に身体拘束ゼロに取り組み、スタッフ会議の中で勉強会や事例検討会を行っています。「身体拘束廃止推進モデル」の事業所として身体拘束は勿論、スピーチロックに最大の注意を払っています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修にも職員の参加を順次積極的に促し、虐待防止に対する意識を高めており、代表者、管理者により常に厳しく徹底し、職員もその重要性を認識し、介護に対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、入居者の方で、この制度に該当する方が居られることもあり、この事業に関わる職員としては、制度を熟知する為、外部の研修棟にも積極的に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、努めて複数の親族等に参加して頂き、入念に説明し、努めて契約書を持ち帰って頂き、納得した上で日を改めて締結するよう配慮している。なお、平成17年にこの事業を開始して以来、円滑に事業を展開している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームでは、苦情相談、要望を受け付けている。本人や家族から苦情、要望がある場合には、施設長を含めたスタッフ会議にかけ、職員みんなで意見等を出しあい改善検討を行う。また必ず議事録に記録して保管しておく。	意見ボックスを設置していますが、来訪時に日々の様子報告と併せて意見・要望を聞いています。家族からの意見・要望があった際は職員会議で検討した後に結果を家族へ伝えていきます。年1回の敬老会(家族会)でも参加家族から意見・要望を聞きサービスの向上に努めています。また、職員会議の内容については議事録に記録し保管することで、全職員に周知しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の運営、活性化の為、毎月職員会議を開催し、職員の意見を尊重し、「業務改善意見」を奨励し反映している。また、介護に対する意欲の増進及び業務の反映、活性化に役立っている。	業務改善や職場の活性化を図る為に、日頃から職員とのコミュニケーションを心がけ、管理者で返答出来ることについてはその場で回答するようにしています。業務全般やケアに関することについては月1回の職員会議で議題に取り上げ、話し合い反映させています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には、処遇改善手当を全員に支給し、キャリアパスの内容を説明して個々のやりがいを持てるよう配慮している。また個人に合わせた勤務体制をとり、職員は理念に基づき自由に働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員は個人の力量に見合った外部研修にも勤務を調整し、参加しており、施設内への普及研修に繋げ、介護のレベルアップに努めている。資格取得に関してもバックアップする体制を取っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内の研修会及び同業者の施設見学会や、合同の勉強会等を通じ、ネットワーク作りとともにサービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族、担当ケアマネージャー等より詳細に渡しお話を伺い、特に本人が一番困っている事、また不安に思っている事を引き出せるよう傾聴し、解消されるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際し、家族の不安を払拭することに時間をかけている。特に、家族の要望や意向に対しては、よく話し合い信頼関係が築けるよう随時確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	私たちの施設の長所・短所を率直に説明し、ご理解を仰ぎ、状況により他の施設を紹介し抱え込まないように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす事を前提に、楽しみや悲しみ、苦しみや痛みを分かち合い、一緒に笑ったり、涙したり、利用者とは親族同様の信頼を築き、共に支え合っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、近況報告のお便りを送付し、遠方の親族等には積極的な支援を呼びかけ、結果を期待している。また面会時には、家族としての心配や不安等、気兼ねなく話して頂き、一緒に利用者を支え合う関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	移転して2年近くたち、入居者の皆さんも落ち着かれ、特に不穏になることもなく新しいホームでの生活を満喫していただいている様子である。	近所に住んでいた方の訪問、習い事をしていた時の先生や生徒が訪ねて来る時もあります。家族対応で馴染の美容院に行っている方、誕生日に外出に行く方、お正月に家族と一緒に自宅で過ごす方など、個々に馴染の関係が途切れることの無いように支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、何気なく隣同士に座ってもらい会話を交わす糸口を作ったり、「個」にならない様に、「仲間」づくりが出来るような雰囲気作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	例えば他施設へ移るような場合は、今後の生活に支障がないように、グループホームでの生活状況を通知、共有して頂き、本人、家族等が孤立等の問題に遭遇した場合は、全面的に支援する。		
III 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	重度の認知症の利用者さんからの思いや、意向の把握は大変困難で苦慮しておりますが、親族等からの情報や入居前の生活を考慮し、また職員が本人の視点に立って思いや意向の把握に取り組んでいる。	入居時に家族から聞いた情報と日々の関わりの中で聞かれた本人の気持ちにズレが生じていることも多々あり、苦慮することもあります。家族に相談して本人の意向を尊重して対応しています。また、事業所では1シーズンごとに持ち回りで居室担当制を敷いており、全職員が利用者全員の情報を把握するように努めています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーの問題もあり把握は困難ですが、利用者個々の歴史や経過を把握することは重要である為、家族との信頼感の確保により、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の出来ること、出来ないこと、分かることを把握するのは大切である為、日々の会話や行動、仕草等、見逃さないよう細心の注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者に一人ずつ担当者をつけ4カ月のサイクルで担当を交代している。その間は、担当者が衣類や身の回り、体調の変化などの様子に気付くなどして、スタッフ会議などで報告してもらい介護計画に反映させている。	毎月のカンファレンスで担当者を中心に気になる点を発言してもらい、気づきノートや介護日誌を基に課題やケア方法についてアセスメントを行い、介護計画を作成しています。3ヶ月ごとの見直しを基本としていますが、特変があった場合はその都度見直しを行っています。	今後の継続	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は毎日（1日3回）表情の変化や仕草や言葉等、小さな変化も介護日誌に記入し、情報を共有すると共に、介護計画に反映させている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族等の要望により、一時帰宅等の要請があれば、送迎を含み臨機応変に対応している。また、通院等も家族の事情を考慮し対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会には加入しており、町内のお祭りや盆踊り、餅つき等で利用させて頂いている。今後、地域包括支援センターや地域のボランティア等、必要に応じて支援、協働頂ける体制作りをしていく。			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を最優先させている。なお、医療連携については本人、家族の了承を得ている。	本人のこれまでのかかりつけ医を大切に、従来のかかりつけ医での受診を希望される方は受診を継続出来るように支援しています。内科の往診医は月2回、歯科は必要に応じて往診に来てもらっています。訪問看護師が毎週訪問し、バイタルチェックや体調管理を行っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の生活の中から個別の健康管理を実施している。その上で看護職員（医療連携）により受診の必要の可否等の判断を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者が発生した場合は、家族、病院と協議し、協同連携している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の利用者に対しては、主治医の指導の下で定期往診を始め、適切に対応し、終末期に向けて家族との話し合いをその都度設け、介護等の対応方針について、介護、看護職員と主治医を含めたチームで対応している。	契約時に「重度化に対する指針について」説明し、同意を取り交わしています。看取り体制に入った場合には、再度話し合いの場を設け家族の意向を確認し、家族、医療関係者、職員を含めたチームで対応しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホーム協議会の講習を通してほとんどの職員が普通救命の講習を受け、急変や緊急時に対応できるよう備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災管理者を選任し、毎年度火災や災害等の緊急時に備え、年4回訓練を行っている。運営推進会議の役員の方にもご参加いただき、消防署の職員の指導の下、訓練を行っている。	夜勤者も含む全職員が参加できるように、年4回の避難訓練を実施しています。1階の小規模多機能と合同で実施し、外階段・内階段を使っての避難と消防署立ち合いでの水消火器を使った訓練（年1回）を、利用者参加で行っています。訓練終了後は消防職員から講評をいただき、次の訓練時に反映させています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重した上で、その方にあった言葉かけやわかりやすい態度で対応している。	理念にも「人の尊厳を大切にします」と掲げ、言葉かけは特に注意を払い、職員同士の会話でも言葉遣いを意識して話すようにしています。職員は基本姿勢チェックシートを年2回記入し、自己評価をすることで接遇等に対する姿勢の気付きを促しています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、意図的に選んで頂く場面を作っている。また会話の中でも思いや希望を表せるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のペースやリズムに合わせ、その時に“やりたいこと”や“行きたい所”をくみ取り、実行に移している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品をしている方は、化粧品は自己管理としている。自分で管理することで、お化粧品をすることを思い出している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じ食事を一緒にし、楽しみながら食べ方の混乱や食べこぼし等に対する支援をさりげなく実施。お皿の盛りつけや後片付けも見守り、声かけしながら、個々に出来ることを見極め行っている。	食材はレシピ付きで業者に委託し、湯銭と手作りを使い分けながら職員が調理しています。皆でテーブルを囲みながら職員も一緒に会話に参加して和やかな雰囲気です。食べこぼしがあった際には、職員がさり気なく処理する等の支援しています。出来る方には見守りしながら職員と一緒に片付けてもらっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の食事、水分の1日の摂取量を把握し、介護日誌へと記載し、バランスを確保するよう努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、義歯の手入れ、出血や炎症のチェック等、利用者の力を引き出しながら口腔内の清潔を日常的にそれとなくチェックしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の利用者の排泄パターンを表に把握し、さりげない声かけやトイレへの誘導を行い、不快なく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を基に声掛けし、トイレでの排泄に繋がるよう支援しています。自立している方も多く、トイレに個人毎のパットやリハビリパンツの予備を置いておくことで、その場で交換できる様プライバシーにも配慮しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便を促す為、水分補給、繊維食品及び運動等、毎日の生活の中で継続的に対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者は皆さん、入浴が大好きで拒否される方は、いない。入浴時には思いもかけない楽しい話が入居者から聞ける場所なので、出来るだけリラックスできる様に、入浴担当者は雰囲気作りに工夫している。	週2回の入浴と1回の清拭で、清潔保持に努めています。各ユニットに機械浴の設備も導入されており、重度化した場合でも対応できる体制が整っています。浴室は常に綺麗に掃除され、気持ち良く入れるように心掛けています。入浴時には田舎の話をする等リラックスした雰囲気作りを工夫し、入浴後には保湿クリームを塗って、乾燥しないよう配慮しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほとんどの方は薬も使わずに安眠できている。日勤者、夜勤者間の申し送りをしっかりと行い、夜眠れない利用者には日中の活動に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について職員はある程度掌握している。なお、新しく処方される際には、主治医又は薬剤師により解説を受けている。日常の変化、状況については細部にわたり看護師、医師に報告するよう努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの利用者の特技、趣味を把握することで、生き甲斐に繋がるよう支援している。なお高度の認知症の方には色々な事を提供し、反応を見ながら楽しめることを見つけていけるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所には、川沿いの散歩道として整備され安全に歩ける歩道もあり、散歩に適した環境である。車椅子対応の車などを利用して、入居者の皆さん方をドライブやポピー散策などにお連れしている。	平作川の川沿いは散歩道として整備され、日頃から散歩に出かけています。屋上からの眺めも良く、外気浴の際に利用しています。デイサービスや小規模多機能の車いす対応の車を使用して、ドライブや初詣、久里浜花の国などの遠出することもあります。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持していないと不安になったり、ご自身で買い物するのが楽しみな方も居られる。自己管理出来る方には所持金額はご家族と相談し、ご自身で管理して頂いて。また自己管理出来ない方は、お小遣い帳をつけ、こちらで管理しており、買い物に出かける際には使って楽しんで頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書けない方が多数を占めているが、それとなく誘い毎年ご家族への年賀状は利用者を書いて頂いている。また、電話のダイヤルを支援すれば会話ができるので、状況を判断し実施している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく居心地の良い空間を常に意識し、台所は、皆さんが集まる談話室と同空間である。食事の支度や美味しそうな匂いがして、家庭に居るような雰囲気で過ごしていただけている。	利用者と一緒に毎朝清掃を欠かさず行い、清潔さを保つように意識しています。リビングは窓から明るい光が差し込み、折り紙で作った季節の飾りを壁や天井に飾り、居心地良く過ごせる雰囲気作りを大切にしています。トイレの扉・浴室の扉・居室の扉は色分けがされており、利用者が間違えることのないようにも配慮されています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室の脇には、気軽に腰を掛けられる大きなベンチが設けてあり、自由に利用し思い思いに過ごせるような居場所になっている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具を搬入して頂き、落ち着いた雰囲気を確保し、利用者それぞれの好みに応じた居室を作っている。また利用者の要望を尊重し、利用者と共に居室内の様様替えも行っている。	居室はエアコンとベッド、防災カーテン・整理ダンスが設置されています。部屋の形はそれぞれ違い、入居時に家族や本人と相談して決めています。仏壇や家族・ペットの写真等を飾り、本人が居心地よく過ごせる様配慮しています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行に不自由な方も、トイレ、食堂等に自立で移動できるように手すりをつけ、その方にあった介助の方法を職員で話し合い、成果を上げている。			

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム
チェリーホーム森崎

作成日

2017年4月2日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	わかい職員と経験豊富な職員との間にスキルのバラつきがある為、せんもん的なサービスの向上に努めていく必要がある。	職員の質の向上に向けて数多くの研修会や勉強会に参加する。	・横須賀市グループホーム協議会主催の研修会に参加する。 ・内部研修で職員が希望する研修を行う。	12ヵ月
2	40	日々の暮らしの中の楽しみの一つが食事だが、食事の時にむせ込みをされる利用者が、増えたため一層の見守りが必要である。	その人らしい食事をする為に、安全で楽しい食事を心がける。	・飲み込み易くする為食材の形状に気を配る。 ・器の盛り付けにも工夫する。 ・職員は、同じテーブルに着き食事をしながら利用者を見守る。	12ヵ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホームチェリーホーム森崎
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中での関わりを大切に、管理者は理念達成に取り組んでいる。また、職員は管理者の姿勢を見ながら、理念を共有し、日々取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	移転してから2年近くたち近隣の方々にも協力を頂き、お正月には獅子舞い。三味線、民謡を聞かせていただきました。またボランティアの方が正月にきて「お茶会」を開いていただき入居者の皆さんが大変喜んでくださいました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お年寄りを抱えるご家族より、時々介護相談を気軽に受け入れ、地域の人々に役立てられるよう取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他の地域の民生委員の方から相談を頂き、地元の民生委員の方々と一緒に問題の解決に向けて取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	業務に疑問が発生する度に行政の担当者にご迷惑をお掛けし、ご指導頂き感謝している。今後も自助努力は当然だが、行政の指導を賜り、サービスの向上に努めていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で「身体拘束廃止委員会を設置し施設長を委員長としスタッフ全員を委員会のメンバーとして月1回のスタッフ会議の際に、身体拘束についての勉強会や話し合いを持っている。施設長、管理者が「身体拘束廃止推進モデル」の研修会の受講を受けているので、今まで以上に身体拘束のない介護をおこなっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修にも職員の参加を順次積極的に促し、虐待防止に対する意識を高めており、代表者、管理者により常に厳しく徹底し、職員もその重要性を認識し、介護に対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、入居者の方で、この制度に該当する方が居られることもあり、この事業に関わる職員としては、制度を熟知する為、外部の研修棟にも積極的に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、努めて複数の親族等に参加して頂き、入念に説明し、努めて契約書を持ち帰って頂き、納得した上で日を改めて締結するよう配慮している。なお、平成17年にこの事業を開始して以来、円滑に事業を展開している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームでは、苦情相談、要望を受け付けている。本人や家族から苦情、要望がある場合には、施設長を含めたスタッフ会議にかけ、職員みんなで意見等を出しあい改善検討を行う。また必ず議事録に記録して保管しておく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の運営、活性化の為、毎月職員会議を開催し、職員の意見を尊重し、「業務改善意見」を奨励し反映している。また、介護に対する意欲の増進及び業務の反映、活性化に役立っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には、処遇改善手当を全員に支給し、キャリアパスの内容を説明して個々のやりがいを持てるよう配慮している。また個人に合わせた勤務体制をとり、職員は理念に基づき自由に働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員は個人の力量に見合った外部研修にも勤務を調整し、参加しており、施設内への普及研修に繋げ、介護のレベルアップに努めている。資格取得に関してもバックアップする体制を取っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内の研修会及び同業者の施設見学会や、合同の勉強会等を通じ、ネットワーク作りとともにサービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族、担当ケアマネージャー等より詳細に渡しお話を伺い、特に本人が一番困っている事、また不安に思っている事を引き出せるよう傾聴し、解消されるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際し、家族の不安を払拭することに時間をかけている。特に、家族の要望や意向に対しては、よく話し合い信頼関係が築けるよう随時確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	私たちの施設の長所・短所を率直に説明し、ご理解を仰ぎ、状況により他の施設を紹介し抱え込まないように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす事を前提に、楽しみや悲しみ、苦しみや痛みを分かち合い、一緒に笑ったり、涙したり、利用者とは親族同様の信頼を築き、共に支え合っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、近況報告のお便りを送付し、遠方の親族等には積極的な支援を呼びかけ、結果を期待している。また面会時には、家族としての心配や不安等、気兼ねなく話して頂き、一緒に利用者を支え合う関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	移転して2年近くたち、入居者の皆さんも落ち着かれ、特に不穏になることもなく新しいホームでの生活を満喫していただいている様子である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、何気なく隣同士に座ってもらい会話を交わす糸口を作ったり、「個」にならない様に、「仲間」づくりが出来るような雰囲気作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	例えば他施設へ移るような場合は、今後の生活に支障がないように、グループホームでの生活状況を通知、共有して頂き、本人、家族等が孤立等の問題に遭遇した場合は、全面的に支援する。		
Ⅲ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	重度の認知症の利用者さんからの思いや、意向の把握は大変困難で苦慮しておりますが、親族等からの情報や入居前の生活を考慮し、また職員が本人の視点に立って思いや意向の把握に取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーの問題もあり把握は困難ですが、利用者個々の歴史や経過を把握することは重要である為、家族との信頼感の確保により、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の出来ること、出来ないこと、分かることを把握するのは大切である為、日々の会話や行動、仕草等、見逃さないよう細心の注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者に一人ずつ担当者をつけ4カ月のサイクルで担当を交代している。その間は、担当者が衣類や身の回り、体調の変化などの様子に気付くなどして、スタッフ会議などで報告してもらい介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は毎日（1日3回）表情の変化や仕草や言葉等、小さな変化も介護日誌に記入し、情報を共有すると共に、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族等の要望により、一時帰宅等の要請があれば、送迎を含み臨機応変に対応している。また、通院等も家族の事情を考慮し対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会には加入しており、町内のお祭りや盆踊り、餅つき等で利用させて頂いている。今後、地域包括支援センターや地域のボランティア等、必要に応じて支援、協働頂ける体制作りをしていく。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を最優先させている。なお、医療連携については本人、家族の了承を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の生活の中から個別の健康管理を実施している。その上で看護職員（医療連携）により受診の必要の可否等の判断を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者が発生した場合は、家族、病院と協議し、協同連携している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の利用者に対しては、主治医の指導の下で定期往診を始め、適切に対応し、終末期に向けて家族との話し合いをその都度設け、介護等の対応方針について、介護、看護職員と主治医を含めたチームで対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホーム協議会の講習を通してほとんどの職員が普通救命の講習を受け、急変や緊急時に対応できるよう備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災管理者を選任し、毎年度火災や災害等の緊急時に備え、年4回訓練を行っている。運営推進会議の役員の方にもご参加いただき、消防署の職員の指導の下、訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重した上で、その方にあった言葉かけやわかりやすい態度で対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、意図的に選んで頂く場面を作っている。また会話の中でも思いや希望を表せるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のペースやリズムに合わせ、その時に“やりたいこと”や“行きたい所”をくみ取り、実行に移している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品をしている方は、化粧品は自己管理としている。自分で管理することで、お化粧品をすることを思い出している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じ食事を一緒にし、楽しみながら食べ方の混乱や食べこぼし等に対する支援をさりげなく実施。お皿の盛りつけや後片付けも見守り、声かけしながら、個々に出来ることを見極め行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の食事、水分の1日の摂取量を把握し、介護日誌へと記載し、バランスを確保するよう努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、義歯の手入れ、出血や炎症のチェック等、利用者の力を引き出しながら口腔内の清潔を日常的にそれとチェックしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の利用者の排泄パターンを表に把握し、さりげない声かけやトイレへの誘導を行い、不快なく排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便を促す為、水分補給、繊維食品及び運動等、毎日の生活の中で継続的に対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者は皆さん、入浴が大好きで拒否される方は、いない。入浴時には思いもかけない楽しい話が入居者から聞ける場所なので、出来るだけリラックスできる様に、入浴担当者は雰囲気作りに工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほとんどの方は薬も使わずに安眠できている。日勤者、夜勤者間の申し送りをしっかりと行い、夜眠れない利用者には日中の活動に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について職員はある程度掌握している。なお、新しく処方される際には、主治医又は薬剤師により解説を受けている。日常の変化、状況については細部にわたり看護師、医師に報告するよう努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの利用者の特技、趣味を把握することで、生き甲斐に繋がるよう支援している。なお高度の認知症の方には色々な事を提供し、反応を見ながら楽しめることを見つけていけるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所には、川沿いの散歩道として整備され安全に歩ける歩道もあり、散歩に適した環境である。車椅子対応の車などを利用して、入居者の皆さん方をドライブやポピー散策などにお連れしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持していないと不安になったり、ご自身で買い物をするのが楽しみな方も居られる。自己管理出来る方には所持金額はご家族と相談し、ご自身で管理して頂いて。また自己管理出来ない方は、お小遣い帳をつけ、こちらで管理しており、買い物に出かける際には使って楽しんで頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書けない方が多数を占めているが、それとなく誘い毎年ご家族への年賀状は利用者を書いて頂いている。また、電話のダイヤルを支援すれば会話ができるので、状況を判断し実施している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく居心地の良い空間を常に意識し、台所は、皆さんが集まる談話室と同空間である。食事の支度や美味しそうな匂いがして、家庭に居るような雰囲気で過ごしていただけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室の脇には、気軽に腰を掛けられる大きなベンチが設けてあり、自由に利用し思い思いに過ごせるような居場所になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具を搬入して頂き、落ち着いた雰囲気を確保し、利用者それぞれの好みに応じた居室を作っている。また利用者の要望を尊重し、利用者と共に居室内の模様替えも行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行に不自由な方も、トイレ、食堂等に自立で移動できるように手すりをつけ、その方にあった介助の方法を職員で話し合い、成果を上げている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム
チェリーホーム森崎

作成日

2017年4月2日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	わかい職員と経験豊富な職員との間にスキルのバラつきがある為、せんもん的なサービスの向上に努めていく必要がある。	職員の質の向上に向けて数多くの研修会や勉強会に参加する。	・横須賀市グループホーム協議会主催の研修会に参加する。 ・内部研修で職員が希望する研修を行う。	12ヵ月
2	40	日々の暮らしの中の楽しみの一つが食事だが、食事の時にむせ込みをされる利用者が、増えたため一層の見守りが必要である。	その人らしい食事をする為に、安全で楽しい食事を心がける。	・飲み込み易くする為食材の形状に気を配る。 ・器の盛り付けにも工夫する。 ・職員は、同じテーブルに着き食事をしながら利用者を見守る。	12ヵ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。